

『漂流郵便局 -届け先のわからない手紙、預かります-』
久保田 沙耶／著
小学館



瀬戸内海に浮かぶ小さな島、粟島^{あわしま}にその郵便局は存在します。ここには、全国から届いた様々な“届け先のわからない手紙”(故人宛、未来宛etc)が保管されていて、訪れた人ならだれでも読めるようになっています。あなたも一通送ってみませんか？
※現在はコロナ対策でお休み中です。

『バタフライ -17歳のシリア難民少女がリオ五輪で泳ぐまで-』
ユスラ・マルディニ／著 土屋 京子／訳
朝日新聞出版



シリア代表の水泳選手ユスラは、内戦が激化する中、出国してドイツを目指す。旅の途中で出会った人々と共に、ゴムボートでエーゲ海を渡るのが…。死と隣り合わせの日々、難民ゆえにオリンピックに出場できることへの葛藤。あたりまえの日常が失われたコロナ禍の今、心にしみる一冊。

『部活魂！この文化部がすごい』
読売中高生新聞編集室／著
筑摩書房



サッカー部、野球部だけが部活じゃない！映画のモデルにもなった強豪百人一首部や、伝統芸能を口伝と実演のみで受け継ぐ^{ししおど}鹿踊り部、テレビでおなじみのクイズ研究部まで。本気だからこそ熱くなれる！大好きなものに青春をささげるノンフィクションストーリー。

ノンフィクション

～10代にこそ読んでほしい、この1冊～

『できちゃいました！フツの学校』
富士晴英とゆかいな仲間たち／著
岩波書店



フツの学校ってよくある学校？他の学校と何が違うの？進学実績だけではない、一人ひとりが主体的に学ぶ学校を目指して奮闘する、実在する私立中高一貫校。みんなの創意工夫でこんな学校ができちゃった！校長、教員、生徒たちからのメッセージを紹介します。

『「ぼくの父さんは、自殺した。」 -その一言を語れる今-』
今西 乃子／著
そうえん社



主人公の両親は幼少時に離婚し、その後一緒に住んでいた父親は彼が中学2年の時に突然自殺してしまう。死んでしまった父親への怒りと悲しみ、様々な自責の念、そして周囲からの“自殺は弱者、無責任な死、だから父親が自殺したなんて言うてはならない”という無言の圧力…。当時から26歳に至るまでの彼の葛藤や生き方が丁寧に描かれ、読む者に深い印象を残す1冊です。